

東カリブ諸国機構（OECS）6か国月間情勢報告
（2022年10月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

10月の東カリブ諸国機構（OECS）6か国（下記注）の内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

（注）OECS 6か国

アンティグア・バーブーダ、ドミニカ国、グレナダ、セントルシア、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントビンセント及びグレナディーン諸島

1. 概況

- （アンティグア）日本とアンティグアは外交関係樹立40周年を迎えた。総選挙が近づいており（遅くとも来年3月までに実施予定）、与野党の活動が活発化。また、アンティグアを含む捕鯨推進国が商業捕鯨に関する議論の再開を求める決議案を国際捕鯨委員会（IWC）に提出し、野生生物保護団体は批判。
- （セントルシア）与党セントルシア労働党（SLP）の党大会でピエール党首（首相）に対する信任投票が実施され、250人の代議員・役員全員が信任。
- （セントキッツ）ドリュー首相は8月の新政権発足以来、多くの分野で進展があった、投資による市民権（CBI）プログラムは国家の発展に欠かせず、これを適切に強化・改善すると述べた。また、同首相は11月に台湾を公式訪問する。
- （セントビンセント）セントビンセントは台湾の国連加盟を支持する共同書簡を国連事務総長に送付。
- （グレナダ）アンドール外相は、前政権（新国民党）が2014年に開始した投資による市民権（CBI）プログラムについて、グレナダにとって重要な歳入を得るための正当なプログラムだと述べた。また、水産物の適切な保存を確保するため、日本政府は50万ドル以上の機材を供与。
- （ドミニカ）日本政府はドミニカにおいてラロック前カリコム事務局長に旭日重光章を授与。
- （OECS）東カリブ諸国と日本が東カリブ漁業大臣会合に参加。海洋生物資源の持続的利用、沿岸環境問題、ブルーエコノミーの発展の機会、食糧安全保障の改善等について議論。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

- （１２日セントビンセント報道）政府は、２２／２３年シーズンのクルーズ客に対するコロナ入国規制を撤廃すると発表。
- （１３日セントルシア報道）バプティスト保健相は、国内におけるコロナ症例数の多さについて懸念を表明。
- （１３日セントビンセント報道）保健省は今月４日以降はコロナ関連統計の毎日の公表を中止している。今後は週１回の公表となるが、コロナの発生状況が悪化した場合には毎日の公表が再開される可能性もある。
- （２０日ドミニカ発表）スケリット首相は、マスク着用義務の解除を発表。ただし、飲食業者が客に飲食を提供する際にはマスクを着用すべきと述べた。

（２）その他内政

- （２日アンティグア報道）野党統一進歩党（ＵＰＰ）のロベル党首他は９月２８日から多くの国民が住むフロリダ、ニューヨーク、ジョージアを訪問して米国在住国民との間で対話を実施してきた。
- （３日グレナダ報道）就任から１００日が経過したミッチェル新首相が国民に向けて演説。教育への予算配分、教員・公務員の給与減額分の支払い、公務員への年金支払い、生活費軽減措置、コロナ対策パッケージの再構築、空輸コストの低減、出入国手続きの簡素化等の取り組みについて説明した。
- （６日ドミニカ報道）野党統一労働者党（ＵＷＰ）で党首を９年間務めたレノックス・リントン氏が９月３０日に辞任し、同党は声明を発表。また、フランシスカ・ジョセフ暫定党首は、自身が党を率いる準備ができているかについて何らかの声明を出す前に、党の代表者会議の結果を待つと述べた。
- （７日セントキッツ報道）ドリュー首相は、選挙公約であったネービス島行政府との関係改善を促進すると述べた。
- （７日セントルシア報道）フェリックス上院議長が司法の流れを曲げるという罪で起訴された。総督はピエール首相の助言に従い、同氏の議長任命を取り消し、上院での職務が解かれるよう勧告。
- （１０日アンティグア報道）ブラウン首相は、アンティグア・バーブーダ労働党（ＡＢＬＰ）が次の総選挙で全議席を獲得する勢いと述べた。また、同首相は、公務員は遅くとも１２月中に昇給と未払い給料を支給されると述べた。
- （１３日アンティグア報道）ブラウン首相は、総選挙を前にした主要政党の党首討論会はこれまでなかったが、そうした動きに参加する用意があると述べた。
- （１７日アンティグア報道）総選挙が近づく中、ブラウン首相が自らの選挙区で数人に現金を渡すところを野次馬に撮影された。同首相は、少なくとも二箇所で、出会った人に現金を渡すところを複数の人々によって撮影され、それらの動画はWhatsAppやFacebookで出回っている。

- （１７日セントキッツ報道）ドリュー首相は記者会見で、２か月前に新政権が発足して以来、医療、教育、社会サービス、国際関係等の分野で多くの前向きな進展があったと述べた。また、投資による市民権（C B I）プログラムは国家の発展に欠かせず、これを適切に強化・改善するための作業を開始したと述べた。
- （１９日セントキッツ報道）ブラントリー・ネービス島行政長官（市民有志運動（C C M）党首）が同国国会の野党代表に任命された。
- （２５日セントルシア報道）与党セントルシア労働党（S L P）のピエール党首（首相）に対する信任投票が無記名投票で行われ、２５０人の代議員と役員の全員が反対票を一票も入れずに賛成し、１００％の支持を得た。
- （２８日アンティグア報道）西インド諸島大学ファイブ・アイランズ・キャンパスが主催する公開提言シリーズに与党アンティグア・バーブーダ労働党のブラウン党首（首相）と野党統一進歩党のラベル党首が参加する。１０月３１日と１１月１４日に聴衆を前に議論を交わす予定。
- （３１日アンティグア報道）野党統一進歩党（U P P）は、政治キャンペーンは好調であり、最近の調査結果では１０選挙区中７選挙区がU P Pに有利な傾向であると述べている。

３．経済

- （３日付アンティグア報道）財務省統計局は、８月の年間インフレ率を８．３％と発表した。食料品は１２．８％、食用油等は２３．８％上昇した。
- （３日付アンティグア報道）東カリブ諸国と日本が東カリブ漁業大臣会合に参加。海洋生物資源の持続的利用、沿岸環境問題、ブルーエコノミーの発展の機会、食糧安全保障の改善等について議論。
- （３日付セントビンセント報道）東カリブ漁業大臣会合に出席しているシーザー農水相は、漁業と地域の資源の持続可能な管理という非常に重要な問題について、迅速に議論しなければならないと述べた。
- （３日付カリコム報道）グレナダ財務省は、２０２２年上半期報告として、歳入が予想を上回り経済成長率が３．３％であったと発表した。
- （４日付セントビンセント報道）ロシア政府は、セントビンセントに対してロシアへ留学を希望する大学生への奨学金を増大させる。
- （４日付アンティグア報道）ブラウン首相は、トリニダード・トバゴに拠点を置く保険会社C L I C OとB A I C Oの破綻（０９年）に関連する数百万米ドルの不払いに関して、トリニダード・トバゴ側の対応に満足していないと述べた。
- （５日付セントビンセント報道）ゴンザルベス首相は、ペトロカリブ協定の再開後初出荷となるディーゼル燃料の供給が、９月から１０月末に延期になったと話した。A L B A加盟国には、燃料価格の３５％ディスカウントが適用される。

- （6日付アンティグア報道）電気・水道料金の負債を抱える家計は、2021年末までの負債額が免除されることになった。また、サー・レスター・バード病院に対して180日間以上の未払金がある家計も支払いが免除される。
- （6日付アンティグア報道）IMF 4条協議のためにアンティグアを訪問していたIMFミッションは、経済は回復しつつあるが、コロナ以前よりも大幅に下回る状況と評価した。観光収入の減少による歳入減少、労働市場の崩壊、学校閉鎖が、長期に渡り影響を与えると示唆した。
- （6日付セントルシア報道）カリブ開発銀行（CDB）は、コロナ禍により多大な影響を被った脆弱な家庭に対する社会保障事業の拡大のため520万米ドルの融資を承認した。
- （7日付アンティグア報道）7月-9月、海外旅行客が6万人以上訪問し、2019年同期比で+9.2%となった。
- （7日付グレナダ報道）カリアク島-グレナダ間の旅行者は、カリアク空港の空港使用税10東カリブドル(約3.7米ドル)が免除されることになった。
- （10日付アンティグア報道）ブラウン首相は、公務員の昇給を遅くとも12月までに実施すると発表。
- （11日付セントルシア報道）10日、ピエール首相とフェリックス欧州投資銀行副頭取は、保健分野の支援のための1,400万ユーロ融資の署名を行った。
- （11日付グレナダ報道）国連開発計画は、グレナダ、スリナムは世界の最貧民が居住する54カ国に含まれ、債務救済が必須であると先進国へ訴えた。
- （12日付セントビンセント報道）第12回カリブ地域漁業メカニズム閣僚特別会合が開催され、8つの決議書が採択された。
- （12日付グレナダ報道）ドミニカ政府は、中国人により開発された仮想通貨TRONに対して、ドミニカコイン発行の承認を与えた。スケリット首相は、開放的で費用効率が高いTRONのブロックチェーン・システムは、ドミニカのような小さな島国を、今後世界経済に組み込むのに極めて重要な役割を果たすと述べた。
- （12日付セントキッツ報道）東カリブ中央銀行は、東カリブ通貨同盟内の2022年6月の物価が前月比3.1%増と発表した。
- （13日付アンティグア報道）アンティグ航空によるアンティグアのセント・ジョン空港とナイジェリア・ラゴス行きの初フライトが10月31日に運航される。
- （14日付ドミニカ報道）スケリット首相は、本年年末に国際空港建設に着手すると発表した。2021年6月、アラブ首長国連邦に本社を置く移民法務サービス企業のMontreal Management Consultantsと国際空港建設契約に署名、建設自体は中国中鉄が担う。

- （１４日付グレナダ報道）政府は、対リビア政府に対する長期負債５００万米ドルについて協議した。政府は、アルジェリア、トリニダード・トバゴに対しても長年債務を負っており解消していない。
- （１５日付セントルシア報道）２０２３年１月１日から、年間所得が２．５万東カリブドル（約９，２５０米ドル）以下の所得者は、所得税が免除されることになった。
- （１８日付セントキッツ報道）農業・漁業・海洋資源・協同組合省は、現在の食料輸入額が１．４億東カリブドル（約５，２００万米ドル）に上るとし、大幅な削減に向けて行動しなければならないと述べる。
- （１８日付セントビンセント報道）ゴンザルベス財務・経済計画・情報技術大臣は、９月末時点の財政赤字額が９，０７０万東カリブドル（約３，３６０万米ドル）に上ると発表した。
- （１８日付アンティグア報道）３日付統計局の発表によると、過去１年間で食料価格は１２．８％上昇した。その内、鶏肉は２７．６％増、食用油は２３．８％増、加工肉は２２．１％増、牛肉は１８．３％増となった。
- （１９日付セントキッツ報道）ＣＤＢの再生エネルギー専門家が訪問し、地熱発電開発の可能性について協議した。
- （１９日アンティグア報道）アンティグアを含む捕鯨推進国が国際捕鯨委員会（ＩＷＣ）に提出した決議案は、商業捕鯨に関する議論の再開を求めている。また、アンティグアが捕鯨を支持するのは目新しいことではなく、過去のＩＷＣ会議では、捕鯨の伝統を持つ日本を支持している。野生生物保護団体は、この決議案がＩＷＣの進展を脅かすものだとして批判。（注：２０日、アンティグア政府は捕鯨解禁の議論の再開を求めているが、解禁を閣議で決定した訳ではないとの報道あり。）
- （２３日セントビンセント報道）ゴンザルベス財務相は、リトルトーキョー・バスターミナル（注：日本の支援で整備された水産施設に隣接）の改修工事を来年実施すると述べた。
- （２５日付セントビンセント報道）ラテンアメリカ・カリブ経済委員会は、２０２２年のセントルシアＧＤＰを８％成長から９．５％成長に上方修正した。
- （２５日付セントビンセント報道）カリブ開発銀行（ＣＤＢ）は、東カリブ諸国間の航空輸送支援として３５万東カリブドル（約１３万米ドル）を供与した。
- （２６日付セントルシア報道）東カリブ諸国機構は、域内における物品の自由取引を可能とする関税同盟の運営を目指す事業を正式に立ち上げた。
- （２７日付アンティグア報道）保健省は、ガーナから看護師を採用することを決定した。バルバドスは、これまでガーナから１００名の看護師を採用している。
- （３０日付アンティグア報道）カリブ災害リスク保険機関は、熱帯低気圧フィ

オナによる災害が発生したアンティグア・バーブーダに対して42万米ドルの支払いをした。

4. 外交

- （1日セントルシア報道）9月28日、台湾技術代表部とカリブ・フェミニスト研究行動協会（CAFRA）の代表者が、女性のエンパワーメントを促進するための覚書に調印した。
- （4日アンティグア報道）日本とアンティグア・バーブーダは10月4日に外交関係樹立40周年を記念して共同プレスリリースを発表。
- （4日セントビンセント報道）露は、同国の大学における学位取得を希望するビンセント人に、より多くの大学奨学金を提供している。ゴンザルベス首相は、先月国連でロシアのラブロフ外相と行った会談で、このことが二国間の中心的な問題であったと述べた。
- （5日セントビンセント報道）セントビンセントは台湾の国連加盟を支持する共同書簡を国連事務総長に送った。
- （6日セントビンセント報道）台湾海峡を挟んだ状況はウクライナ紛争とは異なるが、中国と台湾の緊張関係では、関係者が慎重に状況を管理しなければ、世界中に深刻な影響を与えることになる。
- （7日セントビンセント報道）台湾技術部（TTM）は、セントルシアの若者や女性起業家のスキルアップの一環として、3日間の石鹸作りワークショップを開催した。
- （9日セントビンセント報道）台湾の111回目の建国記念日の一環として、「台湾スポーツデー」が開催された。
- （9日セントキッツ報道）台湾大使館が台湾建国記念日のヘルスウォークを開催。ブラントリー・ネービス島長官は、同イベントにおいて、台湾はセントキッツの友人であり、国際社会においても同国の最良の友人であり続けていると述べた。
- （11日セントキッツ報道）ドリュエ首相は、11月に台湾を公式訪問する、ブラントリー・ネービス島長官も同行する、セントキッツと台湾は強い関係を持ち続けると述べた。
- （11日セントビンセント報道）ラン駐セントビンセント台湾大使は建国記念日の台湾スポーツデーのイベントで、台湾は多くの分野でセントビンセントとともに進歩を続けていると述べた。併せて同大使は、セントビンセントの学生に奨学金を提供するとの約束を再確認した。また、ゴンザルベス首相は、41年にわたる両国の関係は健全なものである、何故なら当国は取引に基づいて外交を行なっている訳ではないからだと述べた。

- （１１日セントルシア報道）シャスネ野党統一労働者党（UWP）党首は、政府は３億５０００万ドルを借りようとしていると懸念を表明。同党首は、この金額には、予算支援のための中国輸出入銀行からの１億米ドルとコロナ対応のための国際開発協会からの３千万米ドルが含まれており、本年７月の政府の借入に続くもので、その際には政府は約１億３千万ＥＣドルを借り入れたと述べた。
- （１３日セントビンセント報道）台湾は、２２年のエブリシング・ヴィンシー・エキスポの開催に向けてセントビンセント政府と提携するため、ラン台湾大使が４万米ドルの小切手を贈呈。
- （１３日アンティグア報道）ロシアが先月ウクライナの４地域を併合しようとしたことに対し、アンティグアを含む１４３カ国が国連総会（U N G A）で決議し、非難した。
- （１３日セントビンセント、ドミニカ報道）インターポールとカリコム犯罪治安対策機関の麻薬・銃の取締り活動が行われ、数百の武器と数百万ドル相当の違法薬物を没収。参加したのは、アンティグア、バハマ、バルバドス、ベリーズ、ボネール、キュラソー、ドミニカ国、ドミニカ共和国、フランス（グアドループ、マルチニーク）、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、トリニダード・トバゴ、セントルシア、セントキッツ、タークス・カイコス、セントビンセント、スリナム。
- （１３日セントビンセント報道）独立４３周年記念事業の一環として開催されるクリエイティブ・アート・フェスティバルにて、セントビンセントと台湾の文化が紹介される。
- （１６日セントルシア報道）台湾政府は、教育ＩＣＴプロジェクトを通じて、スマート教室関連機器を３つの中等教育機関に引き渡した。
- （１７日ドミニカ報道）地域で犯罪が増加し、新しい形態の犯罪も発生する中で、カリコムは地域の安全確保のための加盟国間の協力を深めている。ジャマイカで開催されたカリコム国家安全保障・法執行閣僚理事会では、大西洋横断的な組織犯罪、銃器・麻薬の積替え、海上保安、サイバー犯罪の脅威への取組みの緊急性や、情報共有、法執行機関間の連携と能力構築の重要性が強調された。
- （１８日セントルシア報道）ピエール首相の発案で新たに策定された青年経済プログラムは、緊密な同盟国であり外交パートナーである台湾からの支援と賞賛を集めている。
- （１８日セントビンセント報道）セントビンセントの沿岸警備隊は、同国領海内で、トリニダード・トバゴの船舶からコカイン３３０グラムと弾薬６９発を押収した。
- （２０日セントキッツ報道）中国が武力で台湾を侵略しようとする脅威に直面し、台湾の蔡英文総統は、台湾は自衛すると述べた。

- （２０日カリコム発表）１４日、日本政府はドミニカにおいて旭日重光章をロック前カリコム事務局長に授与。
- （２４日グレナダ報道）アンドール外相は、前政権（新国民党）が２０１４年に開始した投資による市民権（ＣＢＩ）プログラムについて、グレナダにとって重要な歳入を得るための正当なプログラムだと述べた。
- （２４日セントキッツ報道）セントキッツを拠点とする２つのＮＧＯが、昨年１１月に開始された台湾出資の女性雇用・起業・金融包括プロジェクトの下で資金提供を受け、中米・カリブ諸国における最初の受益者となった。
- （２７日グレナダ報道）グレナダ政府は、水産物の適切な保存を確保するため、日本政府から５０万ドル以上の機材を寄贈された。
- （２７日セントキッツ報道）台湾政府はセントキッツの環境省およびエネルギー省に技術支援を提供する。また、同国代表団の国連気候変動会議（ＣＯＰ２７）への参加を支援する。
- （３０日ドミニカ報道）２３／２４年度の中国政府奨学生の募集が開始された。中国の学部・大学院で研究を行うためのもの。
- （３１日セントキッツ報道）韓国の張成民大統領特使がダグラス外相を表敬。韓国の２０３０年万博招致等が議論された。
- （３１日セントルシア政府発表）１１月２～４日に第１５回セントルシア・台湾パートナーシップ・トレードショーが開催され、台湾企業２５社が参加する。